

「講座を受講して」

佐久間牧人

2004年6月22日

「地方自治体入門」というタイトルに引かれてこの講座を選んだ。入門というからにはその内容は、シンプルなものではないかと密かに期待して講座に望んだ。

また、最近では政治に関心がある、とまでは行かなくとも、自分の住んでいる場所で行われている事柄について以前に比べ関心を持つようになっていたので、好都合な講座と思い、受講することにした。

レポートを提出するにあたり、特に、地方自治体を語るときに出てくる「用語(概念)」については勉強不足であり、使い方が誤っている箇所が多々あると思われるが、ご理解いただきたい。

講義の内容は、確かに先生のお話は、一つひとつは「なるほど」と思われ分りやすい内容のものだったが、それらの背景やツナガリが示されると、「？」という思いがした。更に、地方自治体で行われている、起こっている事柄は複雑だ、という感想も合わせ持った。この思いは回数を重ねるごとに益々深まっていき、レポート書いている今でも、その感想は捨て切れない。

まるで他人様の様で失礼だが、各地方自治体で起こっている諸問題にどっぷりと浸かり、日々悪戦苦闘している地域住民、行政、議会・・・はさぞ大変なのだろうなという、心配もしてみたりもした。

一連の講座の中で取り上げられた内容は、合併問題、ゴミ問題、情報公開、三位一体改革など、タイムリーなものだった。それぞれのテーマは単独では分かりやすいものだったが、一つひとつがどこかで微妙なツナガリを持ち、互いに絡み合い、その事が地方自治体(行政)を理解するのを複雑にしているのではないか、と思われた。

受講する側がしっかりとその微妙さを意識し、俯瞰的な視野で「地方や地域で行われて(起こって)いる事」の全般をつかみ、同時に個々の内容をつかんでいくという、かなり時間と根気の要する姿勢が必要なのだろうな、とも思った。もっとも何をもって「俯瞰的」とするのは様々な意見があると思うが。

先に、自分の住んでいる所の事柄について関心を持つようになっていたと言ったが、最近では私の回りを見渡しても、またマスコミで取上げられている事を見ても、この道路や公共施設、本当に必要なの?とか、どうしてこんな福祉政策が実施されないの?といった事を考える様になって来ている。

また、最近の身近な例 - 合併問題で言えば、今なぜ、合併なのかという思いもある。地方分権が叫ばれている中での「まちづくり」なのか、あちらこちらで叫ばれている「財政危機の克服」

のための合併なのか、分らない事は多い。

さらに、別の視点で見ると、今私が住んでいる地域の特徴は何だろう?と考える。利便性から見て、ゴミを分別回収してくれている、買い物に便利、道路、公園が整備されている、といった事だろうか。また、街並みがシンプルで居住するのに心地よく、小中学校をはじめとした教育機関が整っている、といった生活文化面での充実が特徴なのだろうか、と考えてみたりする。

上で見たいいくつかの疑問点に対しては、この講座を通して自分なりに探りを入れてみたが、残念ながら受講後の今も「？」なままだ。しかし、分らないままに考えてみると、地方(地域)で起こっている事の背景には、人間臭さが感じられ、それ故様々で複雑なツナガリがあるのではないかと考えるようになっていく。まだまだ学び、実際に見て感じ取る事は多い。

これまでは、講座を通しての疑問点や感想について述べたが、その他に考えたこともある。言い尽くされた事かもしれないが、住民と自治体との関係についてである。

身近で行われている「サービス」の多くは、当たり前だが、市町村といった自治体によって与えられている。例えば、生活に必要な上水道の提供、下水道処理と整備、学校の運営、道路の維持管理、ゴミの収集とその処理等、生活に直接に結びつくサービスは様々ある。言い換えれば、私たち住民と地自体との結びつきは、生活面では極めて密であるという事だ。

自治体からのサービスは、住民にとって必要不可欠なものであるが、だからといって、今の世の中では、自治体が住民より上に立つというものでもないだろう。住民は自治体の行っている事に関心を持ち、意見を言うことによって、ある意味対等な立場で関係を持ち続けているはずだ。

しかし、自治体は「権限」で住民を強制するし、税金をも徴収する。だからなんとなく自治体に対してのイメージは「悪い」。これには、長野県知事ではないが、「自治体の行い」を情報公開等の手法を使って「ガラス張り」にしておくことが重要だと思われる。

住民はいつでも知りたい情報を引き出す事が出来、判断し、自治体と同じ問題意識を持つようになる。こんな関係が互いに維持出来れば、すばらしいと思う。

そしてもう一つ、地方自治体を語るときに、その地域(地区)にある「企業」や「NPO」「NGO」の動きも注目する必要があると思った。一昔前、企業は特に環境破壊、公害の撒き散らし、といった問題を起こし対立関係だったが、今はその苦い経験を活かし、環境ビジネスといった分野を開拓し、その地域(地区)において協力関係にある。また、「NPO」や「NGO」は、自治体や住民、企業ではどうにもならない諸問題に対し、果敢に活動し主体的に取り組む事で、やはりその地域(地区)においてなくてはならない存在となっている。この講座で得たモノをヒントに引き続き、学んで行きたい。

最後に、「地方自治体入門」というタイトルでの公開講座だったが、ぜひ継続していただきたい

いと思うし、入門の「続編」も期待したい。

講座の内容は一見すると地味なものと思われるが、しかし、国と地方、住民と自治体、そこに発生する諸問題が存在する限り、自治体について一度は学んで見る価値はある。

必ずしも人に注目される必要はないが、続ける事で、一人でも多くの方が「地方自治体」について感心を持つ事が出来れば良いのではないかと思った。

また、この様な講座を機に、広く、人々は、今以上に住民意識を持つようになるだろうし、自治体に興味を示し、判断する様になると思う。多少の個人差はあっても、現代に必要な誰しもが持つべき尺度という意味からも、継続をお願いしたい。